

活動終了報告書添付資料(活動写真)

団体名:一般社団法人ワタママスマイル



お弁当づくりに励むワタママたちの



手作りのお弁当



配達用のお弁当



ワタママたちによるお弁当づくり



仮設集会所へのお弁当配食サービスと見守り支援



仮設住宅集会所でのお弁当食事会



手作りのお弁当と一緒に笑顔と元気をお届けします！

この度の東日本大震災に伴う津波による被害が、宮城県石巻市内で最も大きい地域が「渡波（わたのは）」地区です。震災直後は2,000名近くの方々が渡波小学校へ避難し、学校内は避難者でいっぱいでした。その後、渡波小学校は避難所として利用されていましたが、そこで約7ヶ月間、自ら被災し渡波小学校避難所ですっと炊き出しを続けてきたのが地元渡波のお母さん方です。そのお母さん方が自分たちで「ワタママスマイル」を立ち上げました。

“ワタママプロジェクト”とは、この渡波地区で、自ら被災しながらも地域の被災者のために尽力し、いち早く地域の復興と家族や子供のために懸命にがんばっているお母さん（ママ）を応援するプロジェクトです。

渡波（ワタノハ）のママ（ワタママ）さんは、とっても笑顔が素敵なお母さんです。そんな震災にもめげないワタノハのお母さん（ワタママ）の笑顔がどんどん増えていくことを願って、『ワタママスマイル』と名付けました。

“ワタママプロジェクト”では、ワタママさんが自ら立ち上げた『ワタママ食堂』の運営サポート、お年寄りのためのお弁当の配食サービスや見守り支援、お買い物のサポート、宅配サービス、高齢者施設等での食事提供サービスなど“食”を中心としたサポートを行っていきます。

これからも多くの皆さんの“ワタママプロジェクト”へのご支援をお願いいたします。

12ヶ所の仮設の高齢者へお弁当を配食

2015年8月から今年の7月まで渡波地区の12ヶ所の仮設住宅に住む高齢者の皆さんにワタママさんたちがお弁当を手作りして届けました。日曜日を除く毎日スタッフのワタママさんたちが食堂でお弁当を手作りし、80～120個のお弁当を毎日手作りし、仮設のお年寄りの皆さんに配達しています。

特に、一人暮らしのお年寄りの皆さんにはとっては非常に好評で、手作りの美味しく愛情いっぱいのお弁当を食べて、お顔もにっこりすると共にこころもからだも元気になってきています。ワタママさんたちの笑顔や愛情が地域のお年寄りの皆さんにも伝わり、元気を取り戻して頂けることはワタママさんたちも非常にうれしく思っています。

また、2015年度には渡波第1回地、第2回地、万石浦仮設団地の集会所で食事会を10回ほど開催しました。食事会では仮設団地内のお年寄りの皆さんと一緒に集まり、お弁当を食べたり、地元の食材を使用した料理を食べたり、お茶を飲みながら楽しく歓談していました。この食事会で住民さん同士や地域の方々が交流でき、楽しい時間を過ごすと共に、お友達になりその後互いに交流を深める機会となるなど非常により交流の場になったと思います。今後もこのようなお弁当での配食や食事会を定期的に行っていきたいと思っています。

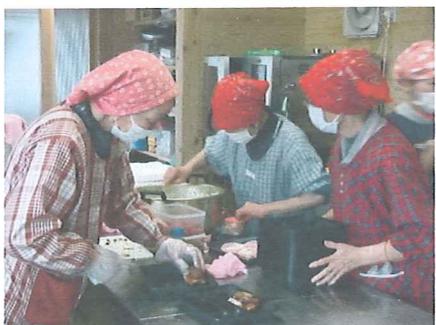
ワタママさん
手作りのお弁当



お弁当作りに
励む
ワタママさん



お弁当作りに
励む
ワタママさん



仮設住宅集
会所での食
事会



(3) 第44782号 (第三種郵便物認可)

あの時、そして今

東日本大震災5年

第2部 ③

桜色のジャンパー姿の店長自ら軽ワゴン車を運転し、弁当を配達する。

「また明日来るから。温かくして寝てね」。日妻たみ子さん(61)は1人暮らしのお年寄りの家で明るく声をかけた。

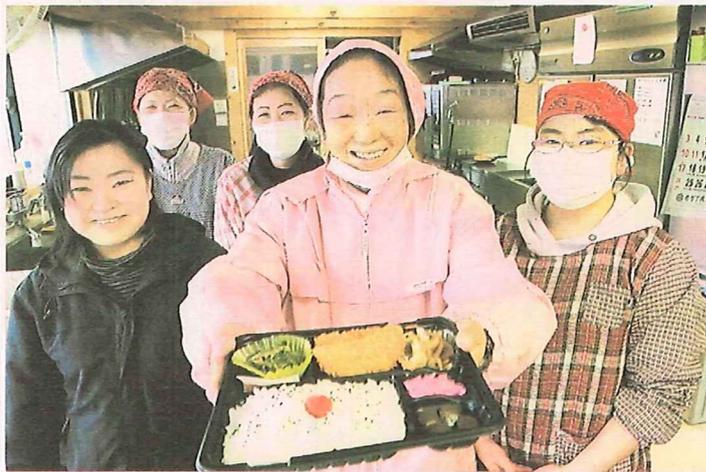
宮城県石巻市の宅配弁当店「ワタママ食堂」は震災で失業した地元の女性が再就職し、自立する場として始まった。従業員は避難所だった渡波小で炊き出しをしていたママさんたちだった。

たみ子さんも津波で自宅と職を失った。「とにかく収入を得ないと」。すぎる

炊き出しのママさんが開店

宮城・石巻 日妻たみ子さん

地域を見守る弁当店に



出来上がった弁当を手に笑顔を見せる「ワタママ食堂」店長の日妻たみ子さん(中央) = 1月18日、宮城県石巻市

思いで炊き出しの仕事に加わった。半年後に避難所は閉鎖したが、働き先をつくた。



避難所の閉所式のためにちらしずしを作る日妻さん(左) = 2011年10月15日、宮城県石巻市の渡波小

地元の食材を使った弁当はメインのおかずと副菜が2、3品に漬物などが付く。レトルト食品に飽きた被災者に手作りの味が好評だった。一度は閉店したが2014年の春に再建。復興工事に伴って会社や病院にも販路が広がっている。

今では炊き出し経験者は店長だけ。開業した時から大切にしているのは、外出が難しい高齢者との会話だ。宅配先で常連客が体調を崩して、急いで担当の介護業者に伝えたことも。

「見守り役よ。若い人より年寄りの私の方が話が合うの」

昨年末、食堂でランチも始めた。「黒字にして自分たちの売り上げだけで生活したい」。

輝ける場で地域のママは働き続ける。